

令和3年度 宇部フロンティア大学附属中学校

# 入 試 プ レ テ ス ト

国 語

(第1限 8:50~9:35 45分間)

## 注 意

- 1 指示があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 3 解答用紙は、問題用紙の中に、はさんであります。
- 4 問題用紙は、表紙を除いて9ページで、問題は 一 ~ 四 までです。
- 5 すべての問題について、句読点と記号は一字と数えます。

一 傍線部のカタカナは漢字に改め、漢字は読みを書きなさい。

- ① なくならないようにホカンする。
- ② 修学旅行で生徒をインソツする。
- ③ 大学の先生のコウギを聞く。
- ④ 人工エイセイを打ち上げる。
- ⑤ 友達になやみをソウダンする。
- ⑥ 昔、この土地は養蚕業が盛んだった。
- ⑦ 快い秋風が吹いている。

二 次の①～③の慣用句とほぼ同じ意味の言葉を、次のア～カの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① つらの皮が厚い
- ② 目から鼻にぬける
- ③ 腹がすわる

ア 残念    イ 覚悟    ウ 感心    エ 予感    オ 平然    カ 利口

### 三

次の文章を読んで、あとの問一～問八に答えなさい。なお、設問の都合により、原文を一部改変しています。

中学一年生の木下広葉（ひろは）は、菊池さんと阪田とともに栽培委員会に所属し、正門にある花壇の花を育てています。五月の連休後に花壇を見ると、一部のペチュニアとペンタスという植物の葉に茶色い斑点があり、枯れているのに気づきました。次の場面は、三人が図書室でその原因を調べているところです。

昼休み、ぼくたち三人は南棟三階の図書室に行った。壁まわりに背の高い本棚、図書室の中ほどに背の低い本棚が並び、窓のそばや中央の柱まわりに、テーブル席がある。

「こつち」

阪田が慣れた感じで、奥の本棚に向かった。

壁に近い本棚に、花やきのこなど植物に関する本と並んで『園芸入門』『ガーデンライフ』といった園芸関係の本がある。

ぼくは『園芸入門』を持って、テーブル席についた。となりに菊池さん、向かいに阪田がすわり、それぞれが持ってきた本をめくり始める。

『園芸入門』は植物の基礎知識にはじまり、園芸方法の解説につながっていた。

そもそも、「植物を元気に育てるには、(注1)光合成を行える環境が必要」とある。植物は二酸化炭素と水を吸収し、太陽の光を使つて糖(注2)と酸素をつくりだす。この糖が、植物が生きていくエネルギー源になるという。

正門の花壇は南向きで日あたりはいいし、水やりもしているから、光合成を行う環境としては問題ないはずだ。

また植物は、光合成でつくりだせない成分を土から吸いあげて、葉や花や実といった体をつくるのに使う。微生物が、落ち葉や動物のフンや死骸なんかを分解すると、それらに含まれていた栄養素が土の中に入る。その栄養素こそ、植物が成長するときに必要な成分なので、人が植物を育てるときは肥料で補うのだという。

そうか。それでヨワキーは、<sup>(注3)</sup>天地返しをすると「**I**が活発に動き始めて、いい土ができる」とか言っていたのか。

本で解説される土づくりや植えつけ、肥料の扱<sup>あつか</sup>いはほとんどがヨワキーが言っていたのと同じだったけど、肥料の割合や土に混ぜるタイミン<sup>びみょう</sup>グなんかは微妙にちがうので、人によってやり方があるのだろう。

ペチュニアやペンタスが枯れたのは、必要な栄養分が足りないせいだろうか。だとしたら、なにが足りないんだろう。どんな肥料をあげるといいのだろう。

そんなことを考えながらページをめくって、「水やり三年」という見出しに手がとまった。「植物への水やりのコツは、三年かかって、やっとつかめる」とある。

へ？水やりって、そんなに

## II

どの植物にも故郷があり、乾燥地<sup>かんそうち</sup>で自生していたものがあれば、湿地<sup>しつち</sup>で自生していたものもあり、その環境に応じて水を多く欲<sup>ほ</sup>しがるものと、そうでないものがある。また、植物は生育時期によって、必要とする水の量がちがう。勢いよく伸<sup>の</sup>びる時期とそうでない時期、土の種類や天候、季節によっても状態は変わるから、「植物の顔を見ながら水やりをしなければなら<sup>①</sup>ない」ということが、つらつらと書かれていた。ぼくははっとした。浮<sup>う</sup>かんだ疑問が口をついて出る。

「ペチュニアとペンタスの原産地<sup>②</sup>って、どこだっけ？」

菊池さんと阪田が、「急になに言ってるの？」という顔をした。

<sup>③</sup>ぼくはふたりの視線をさけて、うつむいた。

「いや……、なんでもない」

なにを言おうとしてんだ。へたなこと言って、空回りしたくないだろ。はっきり、それが原因だと断定できたわけでもないのに、言っ<sup>④</sup>て人を動かしてちがったら、責任を取れないだろ。だまって聞いていれればいいんだ。

そう自分に言い聞かせたものの、抑<sup>おさ</sup>えきれない思いが心の中でくすぶる。

でも、もしもぼくの思う原因が当たっていたら？ 枯れた原因を突きとめなければ、正門の花はこのまま死んでしまうかもしれないー。

ぼくは、本から顔を上げた。

「あの、さ、もしかして枯れたのは水やりが原因ってことはないかな？ 原産地によって、たくさん水がいるのか、いらぬのか？ 分かるみたいなんだけど……」

言い終えたら、手がふるえた。こぶしをにぎって、ごまかす。

菊池さんが、ページをめくる手を止めた。

「ちよつと待って」

読んでいた本を脇わきによけ、テーブルに積んであった『草花図鑑ずかん』をめくる。

「えっと、ペチュニアの原産地は南アメリカ中東部の亜熱帯あねつたいから温帯(注5)。雨が続くと、灰色かび病が発生する」

またページをめくる。

「ペントスの原産地は、熱帯ねつたいの東アフリカからイエメン。蒸れむに弱いので、風通しや水はけが悪いと灰色かび病や立枯病たちかれびょうになる」

菊池さんの声のトーンが下がった。

「今朝、花壇の土、湿しめってた……」

放課後、ぼくたちは正門の花壇を見に行った。黒褐色くろかつしよくの土に触ふれると、じっとり湿っている。

水は足りていたんだ。なのに、機械的に毎日をやっていった。ぼくは水さえやれば、植物は育つと思いきんでいた。「育たなかったら、ぼくたちのせいだ」とか思っていたくせに、植物について知ろうとしなかった。

⑦ 相手を知らなければ、健康に育てることなんてできないのに。

(ささきあり『天地ダイアリー』による)

(注) 1 光合成……植物が日光や水、二酸化炭素などから必要な栄養分を作り出すこと。

2 糖……植物の栄養分のひとつ。

3 ヨワキ……「ぼく」の担任の先生。

4 天地返し……土をたがやしての表面の部分と深い部分を入れかえること。

5 亜熱帯……温帯(日本のようなおだやかな気候の地域)のなかで、熱帯(一年じゅう温暖な地域)に近い地域。

問一 本文中の **I** に入れるのに適切な言葉を、本文中より三字以内で抜き出して答えなさい。

問二 本文中の **II** に入れるのに最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 長いのか？                      イ つらいのか？                      ウ 難しいのか？                      エ 大きなの？

問三 傍線部①「植物の顔を見ながら水やりをしなければならぬ」とありますが、これはどのような意味ですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 植物の生育時期について考えながら、水をやる量を調整しなければならない。

イ 植物が咲かせた花をきちんと見ながら、水をやる量を調整しなければならない。

ウ 植物の花の色にじっくりと注目しながら、水をやる量を調整しなければならない。

エ 植物の生育状態をしっかりと観察しながら、水をやる量を調整しなければならない。

問四 傍線部②「原産地」と同じような意味で用いられている言葉を、本文中より二字で抜き出して答えなさい。

問五 傍線部③「ぼくはふたりの視線をさけて、うつむいた」とありますが、なぜこのような態度をとったのですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 正門の花が枯れた原因を思いついたが、確かなことだとは言えないので、二人にそれを話すのに自信がなかったから。

イ 正門の花が枯れた原因を思わず口に出してしまったが、菊池さんと阪田が疑っているような顔をしたから。

ウ 正門の花がこのまま枯れて死んでしまうことを考えると、悲しくなって二人の顔を直視できなかつたから。

エ 正門の花が枯れた原因を思いついたのが、急なことだったので、二人にうまく説明できるとは思えなかつたから。

問六 傍線部④「抑えきれない思い」とありますが、具体的にはどのような「思い」ですか。本文中の言葉を使って、四十字以内で書きなさい。

問七 傍線部⑤「南アメリカ中東部の亜熱帯から温帯」⑥「熱帯の東アフリカからイエメン」とありますが、これらはどのような特徴をもった地域ですか。それを表す言葉を、本文中より三字以内で抜き出しなさい。

問八 傍線部⑦「相手を知らなければ、健康に育てることなんてできないのに」とありますが、「ぼく」はこの場合の「相手」である「ペチュニア」と「ペンタス」について、どのようなことを知らなかったのですか。解答欄に合うかたちで、本文中の言葉を使って三十五字以上四十字以内で書きなさい。

四 次の文章を読んで、あとの問一～問七に答えなさい。なお、設問の都合により、原文を一部改変しています。

スズメといわれる鳥は、世界に広く分布しています。ヨーロッパにもいます。ただし、日本のスズメとちよつと違います。ヨーロッパの人が、スズメというと、イエスズメという別のスズメのことをさします。イエスズメは、日本にいるスズメと同じように町中の鳥で、英名もそのままハウススパロウHouse sparrowです (Houseは家、sparrowはスズメという意味です)。ヨーロッパにも日本にいるスズメはいるのですが、おもしろいことに森や少し自然の豊かなところにいます。名前もツリースパロウTree sparrowと呼ばれていて、その名のとおり林にいるスズメなのです。日本では町中にいるスズメが、なぜヨーロッパだと林にいるのか、その理由はよくわかりませんが、イエスズメが町中にいるので、林の方に追いやられているのかもしれない。

I、私たちになじみの深いそのツリースパロウ、つまり日本にいるスズメについて、くわしく見ていきましょう。

スズメというと、地味で茶色い鳥というイメージがあると思います。よく見ると、その背中はとても複雑な模様をしています。首からほつたあたりの白さもそれを際立たせています。II、なかなか渋さもありません。江戸時代には、この渋さが好まれて、スズメの色というのは着物の色の基本にも使われたくらいです。

III、体の大きさは、14・5 cmほど、重さは25 gほどです。子供の握りこぶしよりも小さな鳥です。25 gというと、ミカン1個の重さが100 gくらい、卵1個の重さが60 gくらいですから、それよりも、もつともつと軽いんです。みなさんは、鳥をじかに触る機会はめつたにないと思いますが、私も鳥の研究を始めて、最初に鳥を直に手に取ったときは、なんて軽いんだと思いました。鳥は空を飛びますから、体の構造がとて軽くできています。骨も人のものよりもずつと軽い構造になっています。

鳥をじかに触ってみると、驚くことがもう1つあって、それはとても温かいということ。手にとつて温かく感じるとうことは (自分の手が冷えている場合は別ですが)、私たちの体温よりも温かいということ。実際、鳥の体温は40度くらい



あるのです。

④ スズメが生息しているのは、人が住んでいるところの近くです。人がいないと、スズメはいないといってもいいくらいです。たとえば、山間部など、人口が減って過疎化が進んだ村では、過疎とともにスズメもまた減っていくことが知られています。これは、ほかの生き物とは違う反応です。普通の鳥や動物は、人がいるのを嫌がりません。実は、これこそが、スズメが人のそばにいる理由だと思われれます。スズメには天敵がいます。たとえば、カラスやタカの仲間、イタチやヘビなどです。そういったものは、人がいる場所を嫌います。つまり、スズメは、人がいるということを利用して、天敵に襲われないようにしているようなのです。

もう1つ、スズメにとって、人のそばにいることにはよい点があります。それは、巣をつくる場所が豊富にあるということです。スズメの巣があるのはこんなところなのです。こういった人工物（写真参照）の隙間に、草などを敷いて、卵を産み、子育てをします。

ここで、鳥の巣というものと、私たちの家との違いを確認しておきましょう。私たちにあって、家とは毎日の生活の場です。ご飯も家で食べますし、寝るのも家です。子育てもちろん、家の中で行われます。しかし、鳥にとつての巣というものは、子育ての時期に、子育てのためだけに使う場所です。具体的には卵を産んで温める場所、そして、孵ったヒナが十分に大きくなるまでエサをあげる場所といえます。雄親は、巣の中で寝ることさえしません。雌親も、ヒナが孵ったら、寒い日にはヒナが凍えないように夜を巣で過ごすこともありませんが、普通は、巣とは別の場所、たとえば木に止まって寝ます。巣立ったヒナも、一度巣立てば、

### III



（三上修『スズメの謎』による）

(注) 1 過疎化……(人口や建物などが)ある範囲・地域に、度を超して少なくなっていること。  
2 天敵……自然界である生物を捕まえて、それを殺したり増加を抑えたりする他の種の生物。

問一 傍線部①「日本にいるスズメ」とありますが、これをヨーロッパでは何と言いますか。文章中から抜き出して答えなさい。

問二 本文中のⅠ、Ⅱに入れるのに最も適切なものを、次のア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しかし      イ そして      ウ 一方      エ では

問三 傍線部②「複雑」と反対の意味を表す熟語を、次の□に漢字一字を入れて完成させなさい。

□ 純

問四 傍線部③「体」とありますが、筆者がスズメの体に触って気がついたことはどのようなことですか。二十字以内で答えなさい。

問五 傍線部④「スズメが生息しているのは、人が住んでいるところの近くです」とありますが、それはなぜですか。五十字以内で答えなさい。

問六 傍線部⑤「違い」とありますが、私たちと鳥の違いをまとめた次の文の( X )、( Y )にあてはまる言葉を答えなさい。ただし( X )は文中から五字以内で、( Y )は十五字以内で本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。

人間にとって家とは、( X )であり、スズメにとって巣とは、( Y )である。

問七 本文中のⅢに入れるのに最も適切な文を、次のア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 数日後、再び巣に戻ってくるのです。

イ 自分の育った巣を作り直すのです。

ウ 同じ巣で子育てを始めるのです。

エ 巣に帰ってくることはないのです。